

1 学校として目指す授業

基礎的・基本的な知識・技能の習得、課題を解決するための思考力・判断力・表現力を育むとともに、課題解決の過程を大切に、児童の主体性を高めることを目指した授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語の平均正答率においては、東京都や全国を下回る結果となった。「思考力、判断力、表現力等」では、書くこと・読むことが下回っている。 ・算数においても、東京都や全国を下回っており、「測定」では45.5ポイント、「変化と関係」では、53.9ポイントと大きく下回っていた。 ・理科でも、東京都や全国を下回ったが、記述式の回答は、51.8ポイントと東京都や全国を上回った。 ・3教科ともに東京都や全国を下回っているため、基礎基本である国語の読み書きに重点をおき、読書習慣の育成、読書力の教科、読みの視点を設ける等、基礎・基本の定着を図る必要がある	(28)から(30)の「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」など、タブレット機器を活用して取り組んでいる割合が東京都や全国の割合と比較しても高かった。生活面では、(9)(10)「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」では、「どちらかといえば、当てはまらない」が東京都や全国の割合と比較しても上回る結果となった。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（4～6年生）

「どうやったらうまくいくか考えてから学習を始めるようにしている」という質問に対して肯定的回答が56ポイント、「学習の途中で、分からないところやできないところはどこかを考えている」「学習してもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している」に対して、それぞれ肯定的回答をしたのが、69ポイント、75ポイントとなり、この3つの質問は清瀬市の割合と比較して下回る結果となった。また、「学習して分らない言葉があれば、すぐに調べるようにしている」という質問に対しては、肯定的回答をした児童が72ポイントに留まり、否定的回答をした児童が28ポイントになった。課題解決の過程を大切に、主体的な学びができる児童を育成するために、学習量を増やすという量的アプローチだけでなく、学習の質をどのように改善するのかという視点を教師がもち、児童が主体的に学習が進められるようにしていく必要がある。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（5年生）

本校の調査結果は、国語64.6ポイント、算数68.8ポイントとなっており、清瀬市の平均正答率（国語：62.3ポイント、算数：68.0ポイント）に対して、国語で+2.3ポイント、算数で+0.8ポイントとなった。しかし、国語「話すこと・聞くこと」の領域においては-2.0ポイント、また、算数「図形」の領域においては-0.6ポイント、「変化と関係」の領域においては-0.3ポイントと清瀬市の平均正答率を下回っている。さらに、児童の学力を母集団内で上位から25ポイントごとに4層に分けた学力層の推移を見ると、下位であるD層の割合が国語で25.5ポイント、算数で27.5ポイントいることが分かった。各教科等において指導の個別化をより推進するとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図っていく必要がある。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果

「東京都統一体力テスト」では、各種目において、全体的に東京都平均より数値が低い傾向にある。また、質問紙調査において「これまでの体育授業で『できなかったことができるようになった』きっかけ、理由はどのようなものがありましたか」という質問に対して、「授業中自分で工夫して練習した」との回答した児童が全学年で29.8ポイントから49.0ポイントの範囲となっており、5割を下回った。児童が主体的に学びを深めていくことができる手だてを講じていく必要がある。

3 児童の学力・学習状況等の課題

- ・基礎的・基本的な知識・技能の習得に関しては、学年間でばらつきがあるだけでなく、学年内で二極化している傾向が見られるため、協働的な学びをしていく際に、支障が出てしまうことが少なくない。
- ・課題を自ら発見したり、課題解決に向けた方策を自分で考えたりすることが苦手な児童が多い。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことを苦手とする児童が多い。

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
- ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ○...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

各教科等における「見方・考え方」を大切に、課題を解決するための思考力・判断力・表現力を育んでいく。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	言葉への自覚を高め、順序立てて考える力を養うとともに、自分の考えをもてる学習活動を充実させる。 配当されている漢字を文や文章の中で使うよう、ノート指導を行う。				数とその表現や数量の関係に着目し、必要に応じて具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考察する力を養う指導を行う。				生活科における見方考え方とは、「身近な生活に関わる見方考え方」である。生活科では、思いや願いの実現に向けて、児童が「何をするか」「どのようにするか」を考え、それを実際に行い、次の活動に向かっていくような指導をする。		表現についての知識技能を得たり生かしたりしながら、表現を工夫させる場面を多く取り入れる。鑑賞では、曲や演奏の楽しさを見だし曲全体を味わわせ、考えを交流することで音楽的な見方・考え方を広げさせる。		造形活動に楽しみながら豊かな発想をする場面を通して、体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。発想が広がるような場や題材の取り上げ方を工夫する。体全体の感覚を生かす活動を取り入れ				それぞれの運動のもつ機能的特性（楽しさ）に触れられるよう、遊びを充実させる。また、もっと面白くなるような意見を出し合い、運動の楽しさから面白さを広げ、それを味わえるような学習活動				教科書等の教材等から、友達と話し合い、考えをもつことによって、自分の生活を振り返る活動を取り入れる。特定の価値観を押し付けるのではなく、児童自身が「考える道徳」を行えるようにす	
中学年	言葉への自覚を高め、筋道立てて考える力を養うとともに、自分の考えを根拠をもってまとめる学習活動を充実させる。 配当されている漢字を文章の中で使うよう、ノート指導を行う。		社会的現象の見方・考え方を働かせ、主体的に課題解決することができるように、単元の導入を工夫し、学習の問題を自ら作れるように指導する。		数とその表現や数量の関係に着目し、目的に合った表現方法を用いて計算の仕方などを考察する力を養う指導を行う。		理科の見方・考え方を働かせ、差異点や共通点に基き、問題を見いだすことができるように単元の導入を工夫する。問題について、既習内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を立てることがで				表現や音楽づくりについての知識技能を得たり、生かしたりしながら、表現を工夫したり、音楽づくりの活動を行わせたりする。鑑賞では、曲や演奏の楽しさを見だし曲全体を味わわせるとともに、曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付け考えを交流することで音楽的な見方・考え方を広げさせる。		材料や道具などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫して造形的な能力を伸ばすようにする。低学年までに体験した技法や道具を繰り返し扱う場面を設定する。			自己の能力に適した課題を見つけ、その解決のために練習の場や方法の工夫をできるような学習活動を充実させる。考えたことを友達に伝える時間を確保する。				教科書の教材等から、友達と話し合い、多様な価値観を知り、自分の考えを深め、自分の生活を振り返る活動を取り入れる。道徳的価値について児童が考え、また議論する場を設けられるようにす		
高学年	言葉への自覚を高め、筋道立てて考える力を養うとともに、自分の考えを広げる学習活動を充実させる。 配当されている漢字を文や文章の中で使うよう、ノート指導を行う。		社会的現象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考えた学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養えるようにするとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心構、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養えるよう指導する。		数とその表現や計算の意味に着目し、発展的に考察して問題を見いだすとともに、目的に応じて多様な表現方法を用いながら数の表し方や計算の仕方などを考察する力を養う指導を行う。		実験や観察の結果を基に仮説を立て、それを検証する過程を重視する。また、問題解決に向けた考察を書く時間を確保することや、結果を確かめるための再検証をする機会を増やし、深い学びを促す。				表現や音楽づくりについての知識技能を得たり生かしたりしながら、表現を工夫したり音楽づくりの活動を行わせたりする。鑑賞では、曲や演奏の楽しさを見だし曲全体を味わわせるとともに、曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付け考えを交流することで音楽的な見方考え方広げさせる。		材料や道具などの特徴をとらえ想像力を働かせて発想し、主題の表し方を構想するとともに様々な表し方を工夫して造形的な能力を高めるようにする。既習学習以外にも教科横断的な知識も総合して活用できる題材を設定する。		よりよい生活を営むために工夫することができるように。日常生活における課題を見つけ、解決する力を養うために、振り返りを充実させ、実生活に生かせるように促す。		自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方、記録への挑戦の仕方を工夫できるように。また自己や仲間考えたことを他者に伝えられるようICTの活用も充実させる。		外国語を用いてコミュニケーションを行う目的や場面、状況を意図的に設定し、その場面や状況等に応じて、自分の考えや気持ちなどを積極的に表現できるようなICTを活用する。		教科書の教材等から、友達と話し合い、多様な価値観と誠実に向き合い、自分の考えを深め、自分の生活を振り返る活動を取り入れる。特定の価値観を押し付けるのではなく、児童が道徳的な課題を他者と議論し深めていける授業を行っていく。	